

# みんなの広場

## Tokorozawa ウォーキング



### 下新井～ 桜木神社

こぶし団地の北側からカルチャーパーク通りを横切り、日比田・南永井方面へ抜ける道の途中に桜木神社があります。同神社は、日中でも薄暗い雑木林の中にあり、小さな鳥居と社殿が配置されていて、ともすると気づかずに通り過ぎてしまいそうな場所です。以前、このコーナーで紹介した木村・徳田両中尉の墜落地点にほど近いところです。嘉永3年(1850年)に創建された桜木神社はちょっと異色です。というのも、この神社に祭られているのは本居宣長です。本居宣長(1730～1801年)は、古事記や源氏物語などの古典研究を通じて日本人の精神を追求した国学者として知られる人物です。

桜木神社の祠(平成4年撮影)

桜木神社を創建したのは、当時、下新井の村役人であった森田七郎左衛門という人でした。七郎左衛門は別名を道依といい、宣長の流れをくむ本居宣長・平田藤胤らに国学を学びました。道依は、宣長の熱烈なファンで、嘉永3年創建というのも宣長の没後50年にあたっていたからでした。社名の「桜木」の由来は定かではありませんが、宣長が日本的な桜の木を好んだことにちなんだものと思われる。

桜木神社は当初私的に建てられたのですが、その熱心さゆえに多くの人が訪れ、明治初期には公的にも認められる神社となりました。道依は、後に本居家から宣長直筆の文書を贈られるほどでした。道依のような、言ってみれば「村の国学者」は、実は幕末の開東甲信越地方の農村部で、とりわけ村役人や豪農、神官を中心に多かったといわれています。それは、社会の動揺が人々を不安にしていた当時の世相のなかで、国学思想のなかに地域の秩序を回復させようとする精神が説かれていたからだともいわれています。島崎藤村の小説『夜明け前』の主人公青山半蔵も信州伊那谷で国学に傾倒した一人でした。

桜木神社は、境内というよりは雑木林の中に広がった空間といった感じですが、歴史の一コマを伝えてくれるスポットなのです。



桜木神社入口(平成4年撮影)



▲市内22事業所から24チームが参加し、日ごろの訓練成果を披露した「所沢市屋内消防検操法競技会」。



▲練習に練習を重ねた皆さんのすばらしい歌声が会場中に響きわたった「所沢市文化祭・合唱祭」。



▲好天に恵まれ、皆さんの情熱とエネルギーで大いに盛り上がった「ところざわまつり」。

## 街かどズームイン ZOOM IN

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶今回のテーマは「風」▶もう少し経つと寒風が身にしみる冬がやってきます▶春はさわやかな風が、夏は熱風が、秋には心地よい風が吹きます▶いたずらな風が帽子を飛ばしたり、スカートをめくったり▶「風」の思い出や体験談をお寄せください▶締め切りは11月13日(必着)▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先: 〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

### ちよとて散歩

下安松・平野 節子

通りかかったお庭に、萩の花が美しく咲いていました。群れをなして咲く薄紫色の花々を見ていると、心が落ち着くような同時に「はかなさ」を感じるのは私だけでしょうか。万葉人は、萩を「たなく愛し、萩には萩の花見をしたそとがす」。萩には萩の花見をしたそとがす。万葉集には、萩を詠んだ和歌が141首もあり、中でも特に有名なのが山上憶良の「萩野花二首」ですね。これが萩の七草の源ともなっています。

東所沢・勅使河原 亜矢  
今年の「秋」を一番早く見つけたのは、年長になる娘だった。10月1日、今もとんぼの羽を揃いながら帰っている。少し青い美も茶色かわりの「秋」本番を迎えている。

### 父への親子競技

並木・横須賀 みどり

走るのが苦手だった私は、運動会の前日(11月10日)も、明日が雨だといいなと思っていました。当日は、願ひもあんなく、中止になった。そのおかげで、一度だけ「一番」になったことがあります。それは、小学1年生のときの親子競技です。内容は忘れてしまいましたが、最後は父と一緒に走るような競技だったと思います。父は、私の腕を引く張り上げたまま、私をゴールのテープを切りました。とほやとほやも、私の足は地面についていなくて、ただ父が一人で頑張ったようです。遠い昔の思い出だけに、この季節になると当時の光景が色鮮やかに心に映し出されてきます。

### 秋が 一番

久米・井原 喜一郎

豊潤なキンモクセイの香が漂う季節も終わりが近づいた。この季節は、秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。

### 今回のテーマは「風」だ

**「J」見てください**

■テレビ番組

所沢リポート  
11月22日(金)午後5時30分  
40分(午後10時15分)25分放映

■インターネット

シニアケーブルネット  
広報Jチャンネル  
テレビ情報館

11月21日(木)午後1時55分  
2時(午後)の両方、10時放映

**広報テレビ番組**



▲生き物と直接ふれあい、命の尊さを学んでください。「国指定天然記念物ミヤコタナゴの飼育開始」。

## リサイクルふれあい館 不用品ガイド



### テーマ「秋」

一歩早い紅葉  
北有楽町・荻野 幸雄

秋といえは紅葉、それをたれよりも早く見たい。昨年(9月18日)20日、21日の2日で大雪山に出かけた。

秋が 一番  
久米・井原 喜一郎

豊潤なキンモクセイの香が漂う季節も終わりが近づいた。この季節は、秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。

秋が 一番  
久米・井原 喜一郎

豊潤なキンモクセイの香が漂う季節も終わりが近づいた。この季節は、秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。

秋が 一番  
久米・井原 喜一郎

豊潤なキンモクセイの香が漂う季節も終わりが近づいた。この季節は、秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。秋の味を味わうのに最適な時期です。

## はつらつ ところ 野老っ子



島田虎三郎さん (東狭山ヶ丘在住)

### 心の余裕

上安松・三村 絹代

先日、友人と彼岸花を見に高麗川の方へ出かけてみました。休日でもないのに道路は歩いている人が驚きました。秋の空も風も雲も見るものすべてが美しい。今までは、花をゆつゆと見る心の余裕もなかった。秋の夜長を歩いていると、心がなぐさめられても見える。不思議なものです。「内面の進歩こそ、外見の深さです」と私の師匠はおっしゃいました。

秋は、学校の運動会が始まるころに思っています。先生方は、何かと準備のために残っているようで、職員室の電灯が点滅を繰り返しています。田舎に住んでいた当時、赤白の鉢巻を、生徒の家で作っていました。なっていて、母親の仕事でした。その鉢巻に筆で名前を書いてもらい、使ったものでした。たのんで、運動会にははだしで参加したものでした。現在ははだしで参加しませんが、今でも「自然なこと」を、勇ましく、元気に楽しんで動いています。

秋は、学校の運動会が始まるころに思っています。先生方は、何かと準備のために残っているようで、職員室の電灯が点滅を繰り返しています。田舎に住んでいた当時、赤白の鉢巻を、生徒の家で作っていました。なっていて、母親の仕事でした。その鉢巻に筆で名前を書いてもらい、使ったものでした。たのんで、運動会にははだしで参加したものでした。現在ははだしで参加しませんが、今でも「自然なこと」を、勇ましく、元気に楽しんで動いています。

### 京都の思い出

上安松・西村 ヒサ子

秋って何か深い感情を人の心に響かせる季節であるように思います。私が青春時代の10年間を過ごした京都でこの「学校帰りに寄り道し、友人と時間を忘れ語り合った広沢池のほとり、周囲の風景や家並みを愛してみつ、一人で佇む」と散策した嵯峨野から大覚寺までの道。母も何度も歩いた嵐山。その渡月橋から眺める紅葉の印象は、母の思い出とともに忘れられないものでした。

秋って何か深い感情を人の心に響かせる季節であるように思います。私が青春時代の10年間を過ごした京都でこの「学校帰りに寄り道し、友人と時間を忘れ語り合った広沢池のほとり、周囲の風景や家並みを愛してみつ、一人で佇む」と散策した嵯峨野から大覚寺までの道。母も何度も歩いた嵐山。その渡月橋から眺める紅葉の印象は、母の思い出とともに忘れられないものでした。

秋って何か深い感情を人の心に響かせる季節であるように思います。私が青春時代の10年間を過ごした京都でこの「学校帰りに寄り道し、友人と時間を忘れ語り合った広沢池のほとり、周囲の風景や家並みを愛してみつ、一人で佇む」と散策した嵯峨野から大覚寺までの道。母も何度も歩いた嵐山。その渡月橋から眺める紅葉の印象は、母の思い出とともに忘れられないものでした。